

# 営農ウィークリーNEWS

## 北部経済センターにおける活動の一コマ

平成 27 年に経済センターを核とした事業展開を実践して早 5 年が過ぎました。北部は中山間地が大半で気温の寒暖差も大きく、地形や気象が西南部とは様相が異なり、営農形態も独自性が強いです。府、市の関係機関と共に定期的に巡回を行っており、作物の生育状況の確認や営農指導を実施しています。その一コマを紹介します。

特別栽培米の生育状況を確認、こだわりの米生産をフォローアップしていきます。



獣害の実態確認を行い。農家へのヒアリングを通じて、今後の対策を検討していきます。



里の駅の販売状況、多品目野菜生産のため各圃場の土壌分析の依頼を受けており、適切な施肥設計を提案します。

夜中にドーンとトタン板にぶつかる音がしてな。



猪によるイネの食害？

田んぼの中の通り道

### —TAC information—



### まだまだ暑い！イネの水管理に注意



今後、晩生のヒノヒカリを主に出穂を迎えます。まだまだ高温が続いていますが、出穂期直前の穂ばらみ期から登熟期にかけては、イネにとり特に水が必要な時期で、花水と言われます。根の活性化を図り籾の充実度を高めるため、落水、入水を繰り返す間断かんがいに心掛け、高品質なコメ生産に繋げましょう！

## ★ 水稲のトビイロウンカの発生に注意して下さい！ ★

8月中旬に府内各地の水田でトビイロウンカの発生を確認しました。また、8月第1半旬に京田辺市の、第2半旬には亀岡市及び京丹後市の予察灯（60W）でトビイロウンカの誘殺を確認しています。昨年は、9月初めから府内の広い範囲で本虫の発生及び評価被害を確認しました。今後の発生状況に注意してください。

## 1. トビイロウンカの発生状況等

- (1) 8月中旬に、府内各地の水田で成幼虫の発生を確認している（+）。
- (2) 予察灯（60W）への誘殺は、8月4日及び5日に京田辺市、5日に京丹後市、6日には亀岡市でも確認している（+）。
- (3) 向こう1か月の平均気温は高いと予想されている（+）。

## 2. トビイロウンカの生態

- (1) 成虫には長翅型（羽の長い型、写真1）と短翅型（羽の短い型、写真2）があり、ほ場に飛来する成虫はすべて長翅型で、その後の世代で増殖能力の高い短翅型が出現します。
- (2) トビイロウンカは通常1ヶ月弱で世代を繰り返すため、急激に増殖し、埋枯れを生じさせることがあります（写真3）。特に、収穫期が遅い中晩生品種（ヒノヒカリ、京の輝き、祝、新羽二重種）では、被害が拡大することがあるので発生状況に注意してください。
- (3) トビイロウンカは局所的に発生する傾向があるため、ほ場全体をよく観察し、発生に十分注意してください。特に株元を注意して観察してください。
- (4) 低湿田、通風不良田、多肥田等では発生しやすいので注意が必要です。

## 3. 防除上の注意事項

- (1) 防除の目安は株当たり成幼虫が5頭以上です。
- (2) 農薬の使用にあたっては使用基準を遵守してください。特に収穫期が近い品種では、収穫前使用日数や使用回数に注意してください。
- (3) 粒剤は種類により施用時期が決まっているので、適期に施用してください。また、粉剤や液剤で防除する場合は、薬剤が株元に十分届くように散布してください。なお、防除の際には、周辺ほ場に農薬が飛散しないよう十分に注意しましょう。
- (4) 収穫期が迫り、薬剤防除が出来ないほ場は、収穫適期の範囲内で早めに収穫してください。
- (5) 必要以上に早い落水は、埋枯れの発生を助長するので、適期落水に努めてください。
- (6) 出穂後に害虫防除を実施したほ場では被害（評価被害）が生じる可能性は低いと考えられますが、ほ場によっては密度が高くなることもあるので十分注意してください。



写真1 トビイロウンカ長翅型成虫



写真2 トビイロウンカ短翅型成虫と幼虫



写真3 トビイロウンカによる埋枯れ